

「知的生産性」 えっ、あがったり さがったりするんですよね。

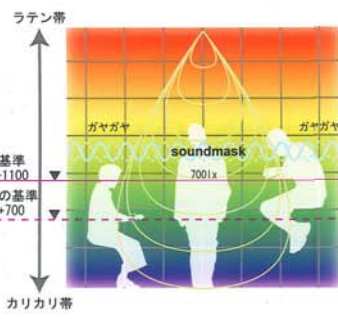
■ 目を見て会話しようぜ！

ネット接続ができれば、いつでもどこでもシゴトはできるでしょ。ワークスペースに求められるのはフェイストゥフェイス、one on oneのダイレクトコミュニケーション。「その方が意思、伝わるじゃん！」だから座っていても、立っている人と視線レベルが揃うようにしたんです。みんなでワイワイ話しているとアイデア沸くよね！お酒飲んだ次の朝、すぐモード上がらないよね！ワーカが互いのモードを視覚的に共有し、相手の状態やプレゼンスに適したコミュニケーションをする方がいいに決まってる。



■ レイヤーを選べ！

- climate layer (気候層)
行為に応じた気候層がある。上層温域ラテン帯は発散モード、下層冷域カリカリ帯は収束モードに相応しく、コミュニケーションやコラボレーションしやすい温域ラテン帯を基準レベル(机上面=FL+1100)としている。上下昇降する事で快適な気候層を選択できる個人要望対応性があり、従前の全域空調に比べ省エネ効果も高くなる。
- color layer (色層)
机の上下に応じたスクライツの色温度が発散を促す暖色系から集中力の高まる寒色系へ色変化。ワークスペース全体に色域のゆらぎが生まれる。



- illuminance layer (照度層)
光源に近い高い所は明るく発散を促す。逆に、低い所は全体より暗めで集中しやすい環境になっている。FL+1100で机上面基準照度を確保する為、照度は光源との距離の2乗に反比例するという原理から、従来比+40cm差でも約30%の省エネ効果を生み出す。
- sound layer (音層)
超水平指向性スピーカーにより、下層域と上層域の境にサウンドマスキングをかけてラテン帯の喧騒から集中領域を守り、音層を形成する。

■ あがったり さがったりで、パフォーマンススコアGET！

個人の変化するモードをICタグが読み取り、デスクが自動昇降するんだけど、自ら操作して知識創造行動の最適環境をカスタマイズすることも可能。逆に、意図的な外的操作によりワーカーのモードを変えてチーム全体の知的生産性をコントロールできないかな？一定モードが続くと知的生産性が低下するので、継続的なモードチェンジが必要だ。蔓延したブルーモード域中心をピックアップし、強制的にピンクモード化操作することで、周囲のブルーがピンクに連鎖変色。「さあ、アゲアゲタイムだよ。」知的生産性の慢性鈍化モードをソフトチェンジしてチーム全体を高めに行ってくれ！

■ 健康あつての知的生産！ (サーカディアンリズムを正しく修正)

個人のモードに沿ってパーソナル環境が最適化されるけど、それじゃあ、自然のサイクルに逆らっちゃうかも…。だから、昼なら昼。夜なら夜。時にはあるべき環境に身体をさらして生体リズムを整えよう。健康あつての知的生産！生体リズムの波にのれば、知的生産性も大幅アップ。

■ ワークステーション

